

研究のあしあと 6

令和5年度 久美浜小学校研究推進部

令和5年11月

授業が終わった後には、事後研が体育館で行われました。これまでの研究の流れをまとめた掲示物等もたくさんありました。また、指導・講評では、単元を作成する時にこうやって流れを作成したという方法も聞くことができました。こちらも今後の参考になればという思いと、本校でも是非やっていきたい！！と思うことを掲載していきます。

体育館掲示物より

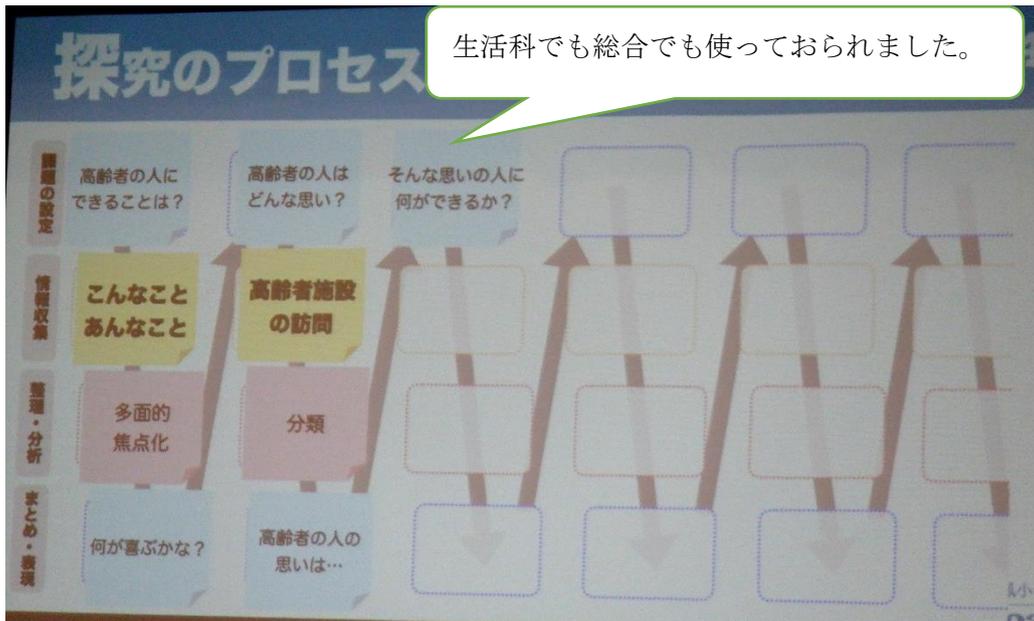


生活科では、「生き物となかよくする」学習で、単元を通して「すむところ」「たべるもの」など、項目を通しておられたようです。

総合的な学習の時間は、これまでのどこの板書にも思考ツールが掲示されていました。

指導・講評の中から

指導・講評は、鳴門教育大学准教授の泰山裕先生でした。これまで、待鳳小学校の研究を共に進め、指導されてこられました。まず、冒頭に待鳳小学校で議論してきたこととして2点挙げられました。それは、「探究の流れは、子どもにとって自然な流れになっているか?」「クラスの1人1人にとって、最適で深い学びになっていたか?」の2点でした。個別最適のことを重要な事項としてお話されていましたが、「最大のリスクは変わらないことである」と、はっきりとおっしゃっていました。(大久保先生も同じようなことを言われていたことを思い出します。)では、生活・総合における「個別最適」とは何かということ、「それぞれが自分なりの課題を具体化し、自分にあった方法で学びを進めていること」だそうです。



とはいえ、各校によっては、「しなくてはいけない単元がある」ということもよく知っておられて、そういった場合や(そうでない場合も含め)単元構想をどのように設定したらよいのか、待鳳小学校で実践されてきた組み立て方を説明してくださいました。4つの探究の過程に沿ってどんどんあてはめていく流れができるそうです。そして、その流れが「自然なものになっているか」が見極めのポイントだということでした。参考までに。

「自然なものになっているか」が見極めのポイントだということでした。参考までに。

学び方通信

「みんなでやっていきたい!!」と、提案したい内容です。

待鳳小学校での学びでは、生活でも総合でも、単元を通して一貫した学びがあったことや「思考ツール」をふんだんに使っておられるという点でした。思考ツールはたっぷり使わないと、いずれ使いこなしたり選択したりすることができません。そこで、「学び方通信」で学びを交流し深めておられたようでした。

昨年度から発行されているもので、今年の5月からは「シンキングタイム」という思考ツールを使う時間を帯で設けておられたようでした。学びの交流の一環として、思考ツールを使われた授業の交流ができればと思い、本校でもこういった通信の発行をしていきたいです。

